平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3590104158		
法人名	社会福祉法人夢の会		
事業所名	グループホームあやらぎの里		
所在地	下関市綾羅木新町2丁目2-9		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町受理日	令和　1年　8月　7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号　山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成31年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1日3食とも手作りの食事を提供しています。掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、配膳、後片付け等利用者一人ひとりに合わせて、家で過ごしていた時と同じように役割を持って生活できるよう支援しています。毎月ご家族に「あやらぎの里」便りを送り、日々の生活をお伝えしています。家族会を年に数回開きご家族、入居者、職員の繋がりが深まるよう支援し、ご家族とのかかわりを積極的に働きかけています。ご家族やお友達との面会、外出も気楽にできるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

食事は、利用者の好みや旬の食材を取り入れた献立で三食とも事業所で調理しておられ、利用者は食材の買い物、準備や片付けなど、できることを職員と一緒にしておられ、利用者と職員は一緒に会話をしながら食事を楽しんでおられます。観葉植物や季節の花で飾られた明るく広いリビングは、大型テレビやソファ、食卓テーブルや椅子を使いやすく設置されており、利用者は対面式のキッチンから漂う食事の準備の匂いや音などの生活感を楽しまれながら、自由に雑誌を読まれたり、BGMに合わせて歌を口ずさんでおられるなど、穏やかに過ごしておられます。他事業所と合同で開催される運営推進会議には、まちづくり協議会や婦人連合会、民生委員、福祉委員、店舗の代表などの参加を得ておられ、地域情報の交換を通して、ふれあい講習会や認知症徘徊模擬訓練、オレンジカフェなどへの参加協力、独居老人の食事会の送迎サポートなどに取り組まれ、地域包括支援センターとの連携のもと、地域に密着した支援に取り組まれています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：24. 25. 26）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：19. 39）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38. 39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：50）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：31. 32）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：29）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：10. 11. 20）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2. 21）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：5）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
67	職員は、活き活きと働けている（参考項目：12. 13）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に理念を唱和し、理念の意味を認識して介護にあたっている。事業所の理念を作り、理念に沿うよう日々の介護を行っています。	創業時に職員が話し合い、「綾羅木」を頭文字に置いた理念を考え、「明るく、安らぎのある、ラブな、きずなのある里」という事業所理念をつくり、地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念と共に事業所内に掲示している。朝の申し送り時に唱和し、職員会議で話し合って、理念に立ち返ってケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント参加。認知症徘徊模擬訓練。ハロウィン参加（子供が立ち寄る場所）。自治会参加している（回覧板を回収）。地域包括による地域住民に対する講習会の開催。子供太鼓開催。	自治会に加入し、地域の認知症徘徊模擬訓練に職員が参加している。利用者と職員が一緒に公民館で開催しているオレンジカフェに参加している。地域の独居老人の食事会の送迎をサポートをしている。地域包括支援センターのふれあい講習に職員が講師として参加している。中学生の職場体験を受け入れ、フルート演奏や子供太鼓などのボランティアの来訪がある。ハロウィンのスタンプラリーの場所として子供が立ち寄っている。他事業所の行事に参加して交流している。利用者は散歩時に近隣の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の徘徊模擬訓練では徘徊役として協力している。施設見学を通じて、認知症の理解をしてもらえるようにしている。地域住民へ対するふれあい講座開催（栄養補助・サプリメントの付き合い方）		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は評価意義を説明し、全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価をすることによって、日々のケアを振り返る機会とし、サービスの質の向上を目指している。	自己評価は経験のある職員のアドバイスを受け、ガイド集を参考にして管理者がまとめ、それを全職員に配布して確認してもらっている。評価を通してサービスの質の向上に取り組むこととしているが、全職員が自己評価に取り組んでいるとはいえない。	・全職員での自己評価への取り組み

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いや意見は職員会議で話し合い、さらなるサービスの向上に活している。	他事業所と合同で、地域包括支援センター、まちづくり協議会（福祉部長）、婦人連合会，民生児童員協議会副会長、民生委員（3）、福祉委員、店舗の代表、法人関係者の参加を得て、会議は2ヶ月に1回開催している。現状報告や行事報告、研修報告、ヒヤリハット・事故報告などを行っている。地域情報を得てイベントへの参加につなげたり、ふれあい講習会の開催や地域の避難場所の検討などについて話し合っている。事業所として会議録を十分に活かしているとはいえない。	・会議録の工夫と活用
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に担当部署に出かけ、事業所の実情や取り組みを話すようにしている。（介護職員が集まらないこと。地域との取り組み参加の報告。利用者さんのケースに応じた報告を行っている。）	市担当者とは、申請事務や困難事例の相談などで出向いて情報交換をしたり、電話やメール、FAXで相談し助言を受けているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をし、民生委員が開催する月1回の独居老人の食事会（80人程が参加）の送迎サポートを行ったり、地域の人の相談窓口となることを検討するなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の職員会議の中で、身体拘束に関する研修を定期的に取り入れ、身体拘束について正しく理解できるように努めている。 又、職員が協力し合い、身体拘束をしないケアに努めている。契約時にご家族にも「身体拘束をしないための指針」を説明している。 身体拘束適正化委員会の開催や研修等行っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」があり、年3回身体拘束適正化委員会を開催している。職員は法人研修で学び、月1回の職員会議で話し合って、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になるところは管理者が指導したり、職員会議で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員高齢者虐待についてのテーマで、年2回以上職員会議で研修を行っている。 又、法人研修でもテーマとして取り上げ、職員の参加を促している。利用者の表情、身体状態に注意を払い虐待の早期発見や見過ごしがない様に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員、権利擁護についての研修を受けており、最善の支援ができるように努めている。実際、現在活用している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明を行い、ご家族の不安や疑問の解消に努めている。又、改定時も十分な説明を行い理解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付体制や手続きを説明している。又、玄関に意見箱を設置し、意見や要望を受け付けやすくしている。	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きについて家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。面会時や年2回の家族会参加時、電話などで家族からの意見や要望を聞いている。居室に仏壇を置いていいかなど、生活上の相談があり、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には代表者も出席し、職員の意見や提案を聞いている。管理者はミーティング時、申し送り時に職員からの意見提案を聞き、みんなで相談して決定している。	運営者が参加する月1回の職員会議や毎朝の申し送りで職員からの意見や提案を聞いている他、管理者は日常的に個別に意見や提案を聞いている。勤務体制の見直しを行うなど職員の意見を業務改善に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する際に、前もって希望の休みを聞き、生活スタイルに対応して働きやすい環境になるように努めている。又、代表者の現場訪問による現状把握と管理者との情報交換などから職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で毎回施設内研修を行っている。施設内研修は年間計画を決め、すべての職員が研修を受けられるようにしている。法人研修は毎月行い、全職員が受けられるように配慮している。外部研修は職員に情報を与え、本人の希望や段階に応じて参加できるよう勤務の配慮を行っている。又、代表者等に起案し受講しやすいよう稟議書等で決裁を受けている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて業務の一環として参加の機会を提供している。今年は管理者が計画作成について2回参加している。法人研修は、5グループホームが合同で年間計画をたて、管理者が講師となって接遇マナー、応急処置、食中毒、感染症予防、脱水・熱中症対策、緊急時の対応、看取り、高齢者虐待、認知症、個人情報の取り扱い、身体拘束などについて実施している。内部研修は、月1回の職員会議時に実施している。新人は管理者がマニュアルに沿って1日研修を行い、先輩職員が各シフト2回以上指導した後、日常の業務の中で指導している。	・外部研修参加の機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会し、研修会、交流会に参加して情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の情報収集の為、職員同士で話し合って情報を共有している。又、本人自身からも、聞き取りの機会を作ったり、表情から気持ちや感情をくみ取り、本人の安心を確保するよう努力している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族の抱えている不安なこと、要望などしっかり聞いて話し合い信頼関係を築いていくよう勉めている。又、相談しやすい雰囲気作りを作るよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを受け入れ、必要なサービスを総合的な見地から見つめ、ご本人に合った最善の支援ができるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご本人の能力に応じた調理や掃除等に参加していただく。又、皆さんの意見に耳を傾けながら、共に過ごす時間を大切にし、自分らしい生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などの際、ホームでの様子をお知らせし家族と話す機会を作る。家族が協力できる事があれば、協力して頂きながら支援するように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問の際にはゆっくりと過ごして頂ける様環境作りをしている。友人との外出の機会を持っている。年賀状や葉書を書くお手伝いをし、友人・知人との関係が続くよう支援している。	家族の面会や親戚の人、友人、趣味の仲間や教え子、宗教の仲間などの来訪がある他、年賀状や手紙での交流を支援している。家族の協力を得て墓参り、法事への参加、外出、外食、小説を読む習慣の支援など、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置に配慮し、利用者同士で会話をしたり、お互いに思いやりを持って接する事が出来るよう見守っている。トラブルの際はさり気なく間に入り、良好な関係が持てるよう気を配っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人の所へ足を運ぶ等している。又、家族と連絡を取り合いながら、今後の相談など支援するよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重出来るよう、日々寄り添いながら行動や言動を把握し、基本情報シートや24時間シートを活用しながら、日々変化していく思いや意向をくみ取り、その心に応えられる様心がけています。	入居前に基本情報シートを活用して身体状況や介護の情報を聞き、入居時にアセスメントシートに生活歴や趣味、好みなどを聞いて記載している。日々の関りの中で得た情報や本人の言葉や様子を24時間生活変化シートに記入し、利用者を担当している職員が施設介護経過にまとめて、月1回の個別ミーティングで職員間で話し合って、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞いたり、個別ミーティングで本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中での情報やアセスメントシートの活用、ご家族からの情報からこれまでの暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、職員同士でしっかり申し送りを行い、ケアが途切れないように努めている。又、月に1度の個別ミーティングの中で、一人一人について話し合い、心身の変化や現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、家族の意向や本人の意向を反映させながら介護計画を作成している。又、面会時や電話連絡などで本人の様子を伝えるようにし、必要に応じてケアに取り入れるよう努めている。	医師や看護師の意見を参考にしてサービス担当者会議を行い、個別ミーティングで職員間で話し合って、本人や家族の思いや意向を反映させた介護計画を立てている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しをしている他、状態に変化が生じたときはその都度見直しを行って、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア・気づきは24時間シートに記録し、特別変化があった場合は連絡ノートに記入するようにし、情報を共有するようにしている。必要に応じて職員同士や家族と話し合い、介護計画の見直しに生かせるよう努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに応じて外泊や外出介助を行ったり、地域の美容院に散髪に来て頂いている。定期的な日程以外のドクターの往診依頼などをしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室に訪問してもらい散髪してもらっている。病院・近くのファミレスなど地域の方と関わり、協力を得られることにより、安全で豊かな社会生活が送れるように支援し協力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医にしている。医師からの情報、家族からの情報を的確に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回訪問診療を受けている他、歯科も必要時に訪問診療を受けている。他科は家族の協力を得て事業所が受診支援をしている。事業所の看護師が週3回、バイタルなどの健康チェックを行い、医療機関に情報を提供している。職員は連絡ノートで受診結果を共有し、必要に応じて家族に連絡している。夜間や緊急時は協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気になる点や気づきなどを看護職員に随時相談しており、急な体調不良が発生した場合などに適切な処置やアドバイスが受けられるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に足を運び、家族や主治医、医療相談員などと情報交換し本人の状況把握に努めている。又、退院後適切なケアが出来るように職員同士で情報を共有し、受け入れ態勢を整えておくように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」について事業所でできること、出来ない事を説明し、同意を頂いている。又、かかりつけ医や協力医療機関にも相談しながら取り組んでいる。	契約時に「看取りに関する指針」に基づいて、事業所でできることを家族に説明し、同意書を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、看護師と相談し、個別ミーティングで検討している。朝の申し送りや職員連絡ノートで情報を共有し、職員間で方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を記録し、職員間で事故防止策について検討後回覧し情報共有している。職員会議にて報告を行い、再検討して事故防止に取り組んでいる。職場内研修にて年2回応急処置方法（止血やショック状態への対応）の研修を行っている。救命救急講習の参加。	事例が生じた場合は、対応した職員がヒヤリハット・事故報告書に状況を記録して、朝の申し送りや職員連絡ノートで情報を共有している。管理者が事故報告書に対応策を記載して職員に回覧し、職員会議で再検討して、対応策を介護計画に反映させ、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。内部研修で年2回、応急処置法について学び、1名は救命救急講習に参加しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2度行っている。今後は地域の人も参加してもらい行っていきたい。3、4日分の非常食の準備をしている。地震、水害時の避難場所の確認。避難経路の確認。防災用品の点検。（懐中電灯等）	拠点施設が合同で、昼間の火災を想定した消火、通報、避難訓練と避難経路や時間の確認を、利用者も参加して行っている。今年度中に夜間を想定した訓練を地域住民や利用者も参加して実施することとしている。90食分の備蓄があり、運営推進会議や自治会で話し合って、事業所を災害時の避難場所として活用することや避難時の見守り等について検討しているが、地域との協力体制ができているとは言えない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう言葉かけや対応に注意している。又、月に一度のミーティングの中で研修も行っている。個人情報の取り扱いには十分注意を払っている。	法人研修で接遇マナー、プライバシーの保護・個人情報の取り扱い等について学び、月1回のミーティングで研修して、職員は人格の尊重とプライバシーの確保、守秘義務について理解し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの都合や強制ではなく、自分の思いを表し、自分で決定できるように適切な言葉がけをするように心がけている。又、言葉での表現が難しい方は、その表情や態度に気を配っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を居室で過ごされたり、リビングでテレビ観賞や談話したり、本人の意思に添ってその人らしい生活が出来るよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理容に来て頂いている。ご本人や家族の要望ができるだけ叶えられる様に努めている。本人の好みに合わせおしゃれが楽しめるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食、夕食3食作るようにしている。調理や配膳、片付け等出来る範囲で一緒に参加して頂きながら支援している。又、四季を感じられる料理献立などを取り入れている。	他事業所の管理栄養士の献立を参考に、その日の職員が利用者の好みを取り入れた献立を考え、三食とも事業所で調理して、体調に配慮した形状で提供している。利用者は食材やおやつの買い物、野菜の下ごしらえ、盛付け、配膳、食器洗い、盆拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じものを同じテーブルで食べて、会話を楽しんでいる。行事食（おせち、恵方巻、ひな寿司、そうめん流し、年越そばなど）や外食（ファミリーレストラン）、おやつづくり（誕生日ケーキの飾りつけ、おはぎ）、友人と喫茶店に行く、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせて食事の量、形態、栄養などバランスを考慮しながら食べていただいている。食事摂取量など記録に残して、一日を通じて確保できるよう配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の出来る力に応じて、口腔ケアの声掛け、毎日義歯の洗浄、定期的に歯ブラシ、コップの消毒を行い清潔を保っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意、便意の訴えがあれば速やかに対応している。一人一人に合った声掛けや対応を工夫し、失敗やおむつの使用を減らすようにしている。	排泄チェック表でパターンを把握し、その人に合った声かけや誘導をしている。プライバシーに配慮した介助を心がけ、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり水分補給をこまめに行っている。運動を取り入れたレクリエーションや散歩を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後2時から入浴を行っている。入浴を行わない人は足浴を行っている。ゆっくりとくつろげるよう入浴剤を入れ工夫している。又、体調に合わせて清拭を行い対応している。	入浴は毎日、14時から15時の間可能で、3日に1回はゆっくりと職員との会話を楽しみながら入浴できるよう支援している。室温を調整し、本人の好みの湯加減で、好みのボディソープやシャンプー、入浴剤、保湿剤などを使っている。本人の希望や体調に合わせて、シャワー浴、部分浴、足浴、清拭、フットマッサージなどを行い、一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の過ごし方を工夫し、夜間ゆっくり休めるよう支援している。一人一人の疲れ具合に応じて、いつでも居室で休めるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋のコピーを事務所に置き確認できるよう工夫している。内容に変更があった場合は連絡ノートに記入し、情報を共有している。又、服薬ミスがあった場合対処方法を明確にしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人得意な事、出来ることをその時の状況に応じて、生活の中での支援やレクリエーションに取り組んでいる。又、張り合いや喜びを感じ、気分転換できるよう支援している。	家族会での大掃除や衣替え、拠点施設での敬老会（手品、踊り）、ボランティア（フルート演奏、ギター演奏、子供平家太鼓）の来訪、誕生日会、節分、ひな祭り、クリスマス会、テレビの視聴、本を読む、歌を歌う、ぬり絵、折り紙、季節の飾りつけ、トランプ、カルタ、ビデオ体操、テレビ体操、口腔体操、風船バレー、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備や片付け、おやつづくり、お茶のパック詰めなど、一人ひとりに合わせた楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩に行くようにしている。又、家族、友人援助による外出、外泊支援をしている。（結婚式、墓参り、法事、食事等）	ドライブ（自然公園）、外食（ファミリーレストラン）、他事業所での行事参加、オレンジカフェへの参加、日々の買い物や近隣への散歩、ベランダでの日光浴などの他、友人と喫茶店に行く、家族の協力を得ての墓参り、法事への参加、外食など、家族や地域の人々と協力して日常的に外出できるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持っておられないが、身の回りの必要なものは家族の了解を得て立替金から購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る範囲で職員と一緒に家族や友人に年賀状を書くようにしている。又、電話の要望があれば家族と相談の上応じられるように努めている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた絵画や装飾物などで季節感を持って頂ける様努めている。又、音楽を流したり個々の写真やパネル等を作成し、掲示する等過ごしやすい空間を作るよう努めている。	明るく広いリビングに観葉植物や季節の花を飾り、利用者と一緒に飾った季節の壁面飾りや利用者の写真などを飾っている。畳の間があり、大型テレビやソファ、食卓テーブルや椅子を使いやすく設置している。対面式のキッチンで、利用者も職員と一緒に食事の準備の音や匂いのある生活感を楽しめる。利用者は本箱に置いた雑誌を自由に読んだり、BGMの童謡に合わせて一緒に歌っている。廊下に手すりを設置し、安全に歩行できるよう配慮し、加湿器等を利用して温度や湿度、換気に配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では畳コーナーや椅子、ソファーなどを配置し、廊下、玄関でもくつろげる様椅子を置いている。一人でゆっくりしたり、気の合った利用者同士や職員とのかかわりが持てるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、なるべく本人の馴染みの物を置いて頂くようにし、居心地よく過ごせるよう努めている。	ベット、寝具、衣類ケース、机、椅子、ソファー、テレビ、仏壇、位牌、時計、衣類、化粧品、本、雑誌など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や遺影、本人の写真や作品（ぬり絵、パッチワーク、ペーパーケース）などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室・トイレなどに手すりを設置し安全に過ごせるよう努めている。又、各部屋の入口に分かりやすいように目印をつける等工夫している。		

2.　目 標 達 成 計 画

事業所名　グループホームあやらぎの里

作成日：令和 1 年 8 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	事業所を災害時の避難場所として活用することや避難時の見守り等について検討しているが、地域との協力体制が出来ているとは言えない。	地域との協力体制を築いていく。	防災訓練時、地域の方々も参加してもらう。	12ヶ月
2	4	評価を通してサービスの質の向上に取り組むこととしてるが、全職員が自己評価に取り組んでいるとは言えない。	全職員での自己評価への取り組みを行う。	自己評価を職員個々で分担して行うようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。